

令和7年度中予地方局予算事業成果表

1 基本事項

- (1) 事業名 「媛かぐや」産地育成事業費
- (2) 事業期間 令和5年度～令和7年度
- (3) 所 管 農林水産振興部 農業振興課 地域農業育成室 伊予農業指導班
- (4) 予算額 1,198 千円

2 事業目的

県育成さといも品種「媛かぐや（※図1）」は、良食味で加工適性に優れ、収益性が高いものの現状では種苗供給量が少なく、これまでの栽培方法では規格を揃えるのが難しいことから、栽培面積が伸び悩んでいる。

そこで、安定生産技術の確立と普及を図るとともに、加工事業者等と連携した需要創出に取り組むことで、水稻転作高収益モデルを確立し新たな産地を育成する。

3 主な取組（何をしたか）

(1) 産地育成推進会議の開催（2回）

- ・新規栽培農家の確保や安定生産技術の確立と普及、加工事業者等と連携した需要創出について協議するとともに各関係機関との情報共有を図った。

(2) 栽培体系の構築

- ・種芋の適期定植を指導し、初期生育を促すとともに、かん水等、適切な栽培管理の徹底を指導した。

(3) 需要創出

- ・えひめ食の大使館認定店（大阪府）において、媛かぐやを提供するフェアを開催した。
- ・県内加工業者と連携し、加工品開発を協議するとともに、首都圏で販促活動を展開した。
- ・市場、飲食店、加工業者等、流通形態別に販売検証を実施した。



図1 産地化を進める「媛かぐや」



図2 試作した加工品
（ダイスカット）

4 成果（何がどう変わったか）

- 新規栽培農家7戸を確保、管内栽培農家は22戸（前年度：15戸）、栽培面積は30a（前年度：17a）に増大した。
- 種芋の適期定植により初期生育が旺盛となり、欠株率が減少した。
- 栽培管理の徹底により、平均反収が2.2tに増加した（前年度：0.6t）。
- 「媛かぐやフェア」の実施では、PRパンフの配布や創作料理「竜田揚げ」等を提供し、認知度を醸成した。
- 加工品開発は、ダイスカット、マッシュ等を試作（図2）し、首都圏事業者と商談した結果、総菜や和菓子の原料として高い潜在力を把握した。
- 流通形態別の販売検証の結果、出荷・選別作業が省力化でき、買取価格が安定する「加工出荷」を令和8年度の主軸に設定した。